

くすり博物館だより

VOL. 54

平成17年(2005)12月

NAITO MUSEUM OF PHARMACEUTICAL SCIENCE AND INDUSTRY



内藤記念くすり博物館
〒501-6195 岐阜県各務原市川島竹早町1
Tel: (0586)89-2101 Fax: (0586)89-2197
<http://www.eisai.co.jp/museum/>

図書館が完成しました

テーマ特集◆企画展「趣味多彩 ある漢方医のコレクション」2005年4月29日(金)～11月27日(日)



内藤記念くすり博物館 (左より) 完成した図書館、本館、展示館。手前は薬草園。後方には、各務原市の山並みから江南市(愛知県)のすいとびあ江南まで見える。

内藤記念くすり博物館附属図書館の竣工

内藤記念くすり博物館の創立は1971年であり、その15年後の1986年には展示館が完成しました。合掌造りを模した本館を中心に、右に展示館、左に図書館を配備することは、創立者・内藤豊次翁が当初から描かれた構想です。本年11月に図書館が竣工し基本構想が完成しました。

当博物館の特徴は、薬用植物園を併設していることと、長年にわたって資料と図書を並行して収集してきたので、資料と図書をほぼ同程度収蔵していることです。開館当初、日本薬史学会の重鎮(当時)・清水藤太郎先生の平安堂文庫を中心に約8,000点でスタートした蔵書も、1992年には漢方医・中野康章先生の大同薬室文庫の提供などがあり、現在では約62,000点に及ぶに至っています。その内、約半数は江戸・明治時代の貴重な和装本です。



完成した図書館は2階建てで述べ面積約1200㎡です。1階には洋装本の書架、多目的ホール、荷解き・燻蒸室、撮影室、会議室を配備し、2階は和装本書庫、資料収蔵庫、6席のブースを備えた閲覧室、セミナー室、調査研究室、修復作業室などからなっています。

今後、「医薬に関する図書」の原則を基本にしながらも、利用者のニーズに応える図書を増やし、より多くの方にご利用いただける図書館を目指します。

館長 篠田愛信



竣工式と建物概要



▲ 来賓の皆様

(左より) かかみがはら航空宇宙科学博物館・丹羽和男館長、岐阜県博物館・下畑五夫館長、各務原市助役・五藤勲氏、岐阜県世界淡水魚園水族館（アクア・トトぎふ）・堀田紀子館長、当館顧問・青木允夫



▲ 当館歴代館長

(左より) 篠田愛信(現在)、三宅康夫(4代目)、岩井鑑治郎(3代目)、青木允夫(初代・現顧問)。

新設された図書館は、2階建ての白い建物で、医・薬史学に関する文献をはじめ、江戸時代の和装本を含む約62,000点の蔵書を収納します。また、史資料の一部、巻物・掛軸・短冊・錦絵広告など13,000点を収納する資料庫も配備しました。

これまでも閲覧サービスを実施してきましたが、スペースが狭くご不便をおかけしてきました。新図書館では、閲覧室・セミナー室などの施設・設備を充実いたしましたので、一段とご利用しやすくなりました。現在は研究者の方のご利用が中心ですが、今後、植物・健康・医薬の解説書などの蔵書を増やし、広く一般の方にもご利用いただけるよう企画中です。また、近々新図書館への蔵書の移動を予定しております。ご利用いただけるようになりましたら、ホームページなどでお知らせいたします。

▼ 和装本書庫

24時間温湿度がコントロールされた閉架書庫で、和装本を収蔵します。



2005年11月15日(火)に、エーザイ(株)松居代表執行役専務を迎えて図書館の竣工式が執り行われました。当日は好天に恵まれ、来賓の皆様、エーザイ(株)関係者、施工各社70人が参列し、竣工式の神事と内覧会が滞りなく行われました。

2F



1F



◀ ロビー

ロイヤルブルーの床を基調とした落ち着いた雰囲気のリビーです。右手奥が図書館受付カウンターです。

▶ 閲覧室

2階に6席あります。このほか、研究者の方がグループで使用できるセミナー室もあります。



▼ 開架書庫

医薬に関する洋装本を収蔵する手動式の移動書架です。



企画展「趣味多彩 ある漢方医のコレクション」

今回の企画展で紹介している資料は、中野康章（1874-1947）が収集した約13,500点のうちの一部です。漢方医として医薬の先人たちの肖像を集めるのはもちろん、時事を記した絵図や薬の広告入り双六、博覧会の紹介まで、多種多様な文物が含まれています。誌面ではその一部を紹介します。

先人への敬意



▲ 張 仲景
90.3×32.5

薬物治療の原典とされる書物『傷寒論』の著者といわれます。中国医学の医聖として古くからあがめられてきました。『傷寒論』は病気の治療法や処方への対応が実践的に記されています。古来より、臨床家によって多くの解説書も著されており、現代の医療で使っている漢方エキス剤の多くが、この本には既に収載されています。

古絵図の世界



▲ 御開港横浜正景
錦港堂蔵版 / 51.5×70.5

神奈川台場を描いています。黒船が来航するようになってから、幕府は防衛のため、各藩に自ら台場を築き、海岸の警備を命ずるようになりました。



▲ 浪華高麗鉄橋之図
翠栄堂半山述・画 石川屋和助版 / 明治3年(1870) / 36.5×49.8

大阪の高麗橋は豊臣公の時作られた橋のひとつであると書かれています。明治3年の春に鉄橋にかけられました。

資料の説明は、資料名／作者／年代／サイズの順に記しました。サイズの単位はcmです。データのない部分は省略しました。

さまざまな刷物



▲ 衛生寿互録
慮月画 / 太田源太郎版 / 明治25年(1892) / 53×69

薬の製品名が書かれていて、双六で遊びながら自然に薬品名も覚えてもらえ、よい宣伝になりました。



▲ 金鯰之図
明治8年京都大博覧会出品 / 遠藤茂平写 / 明治8年(1875) / 36.5×26
京都大博覧会出品の金鯰。博覧会では人気を博したといわれます。

おくすり今昔

浅田宗伯 — 中野康章の師事した漢方医 —

中野康章は幕末～明治時代の漢方医・浅田宗伯の最後の弟子といわれます。コレクションの中に宗伯の書の軸装が多いことから、師を慕い敬っていたことがうかがえます。

宗伯は文化12年(1815)に信濃で生まれました。17歳で上京し漢方医学を修め、かたわら頼山陽にも師事して広く学問を身につけたといわれます。21歳で幕府の医師・本康宗円の門に学び将軍・家茂に謁見が許されたのが46歳の時です。宮中の侍医も務めました。

宗伯の学識の深さは多くの著述によって知られますが、その文章、詩、書、いずれも優れていました。正に病を治す名医であり、史学者であり、儒者であり、詩人であり、書家であり、思想家であり、政治家でもありました。

生涯を通じて親しくしてきた各方面の人々は例えば、服部甫庵、頼山陽など、時代を代表する一流の名士であったことから、宗伯の人となりを知ることができます。

宗伯にまつわるエピソードのひとつに、浅田飴があります。宗伯が氷飴に薬草（薬用人参・桔梗・吐根）を加えることを考案し、薬種商・堀内伊三郎に処方伝授しました。この薬草飴は「良薬は口に苦し」をもじった「良薬は口に甘し」というキャッチフレーズとともに流行しました。後に有名な浅田宗伯の苗字を使い、「浅田飴」と改められたといわれます。



▲ 浅田宗伯画像 (1815~94)

学芸員 伊藤恭子

薬草園の イベント紹介



講演中の
山本美子先生



アロマテラピー講演会

アロマテラピー講演会は9月17日(土)に、山本美子先生を講師にお迎えして開催しました。161名の方が、アロマオイルやその効果などについて熱心にお話をうかがっていました。

ポマンダー作り教室

ポマンダー作り教室は10月29日(土)に開催しました。ポマンダーはスパイスのクローブ(チョウジ)とレモンで作る香り玉です。夏休み親子教室では大人にも人気があり、「ぜひ大人向けの教室も」という声にこたえて、今回実現しました。当日は36名の方にご参加いただき、にぎわいました。

リース作り教室

リース作り教室は12月10日(土)に開催予定ですが、募集早々に50名の定員に達するほどの人気でした。

このほか薬草園では、6~7月に、ルバーブジャム・シソジュース・ラベンダースティック作りの教室も開催しました。多数の皆様のご参加ありがとうございました。



ポマンダー作り教室で楽しく制作されている参加者(上)とポマンダーの材料(下)。今回はレモン・カボス・キンカンを使用しました。



とびっくす



■薬草園フェスタ

晴天と涼しい風に恵まれ、1,575名の参加がありました。今年は寄せ植え教室が大人気で、あっという間に予約がいっぱいになってしまいました。また4月10日の各務原市フードフェスティバルで薬膳カレーが紹介された後だったためか、屋台の前には長い列ができました。

なお、薬草園フェスタは毎年5月第3土曜日に開催予定です。

■インフォメーションシステムと音声ガイドシステムをご利用ください

インフォメーションシステムはくすり博物館のいろいろな情報を紹介するものです。年間スケジュールやイベントのお知らせ、季節の薬草紹介など盛りだくさんの内容ですので、ご来館の折にはぜひチェックしてください。

音声ガイドシステムは、展示室の薬屋店先に設置しており、スイッチを押すと薬屋さんについて音声で紹介します。英語版もあります。



110万人目の来館達成



110万人目の来館者は、静岡県藤枝市から社員旅行でお越しになられた寺田操様です。館長から「薬用植物画集」とらんびき(複製)がプレゼントされました。寺田様はこの後、同僚の皆様と博物館や工場の見学を楽しまれました。写真は、中央の白い服の寺田様と同僚の皆様です。

■夏休み親子教室とわくわくワークシート2005は大にぎわい

夏休み親子教室を7月29日(金)・30日(土)に開催し、さお秤とポマンダー作りを体験しました。

わくわくワークシート見学会は、親子合わせて83名の参加があり、博物館コースでは昔の製薬道具を触る体験を、工場見学コースでは昔の錠剤を作る器械に触る体験をしました。薬草園コースは大変暑い日でしたが、ハーブティーやミラクルフルーツの味見体験をしました。



■「遊ぼう!動かそう!中野コレクション」を体験しよう!

ウェブサイト「くすりの博物館」では、今回の企画展にちなみ、画面上でマウスを動かすと絵の解説が現れたり、双六をしたり、制限時間内にパズルを完成させたり、と動かして遊べるページをもうけました。53号で紹介した「疾草紙」や「妖怪絵巻物」もスクロールしながら見られます。

一見むずかしそうな資料も、マウスでさわって遊ぶと、なぜか身近に感じられる...そんなページですので、ぜひご覧いただき、触って動かして楽しんでください。



◆◆資料・図書ご提供者ご芳名◆◆

熊本大学薬学部 河野亨 鈴木博
中京大学 中西淳夫 成瀬和彦
㈱メディセオホールディングス
~ありがとうございました~
(敬称略/五十音順)

内藤記念くすり博物館

開館/9:00~16:00

休館/月曜日

年末年始(12/28~1/8)

館長 篠田愛信

学芸員 稲垣裕美(編集担当)

学芸員・司書

野尻佳与子・伊藤恭子

庶務 森田麻起子

小島敦子(見学受付)

沼田 望(見学受付)

薬用植物園(栽培管理)

荻谷辰行 栗本裕康 亀谷芳明

顧問 青木允夫

アドバイザー 逸見誠三郎